

新形式電文および移行措置電文の対比表

項目	コード電文				XML電文			
	予報電文	警報電文	新形式電文	移行措置電文	予報電文	警報電文	新形式電文	移行措置電文
通報数が99を超える			NCNのnnにアルファベットを使用(99 A0 A1...)	100報(A0)以降を配信しない、99報を最終報とする			<Serial>は単純増加(99,100,101...)	100報以降を配信しない、99報を最終報とする
推定震源がな(PLUM法のみによる震度予想(仮定震源要素)の場合)	仮定震源要素であることの表記		PRC項のn5が"9"に	PRC項のn5が"/"(未定義)に			<Earthquake>に<Condition>仮定震源要素</Condition>が出現	<Condition>を記述しない
	震源要素		震源要素は仮定震源要素の値に緯度経度に第一観測点の緯度経度、深さ10km(固定)、M1.0(固定)				<OriginTime>・<Hypocenter>は仮定震源要素の値に緯度経度に第一観測点の緯度経度、深さ10km(固定)、M1.0(固定)	
	海陸判定(地震の発生場所)		RT項のn1が"/"に	RT項のn1が"0"(内陸)に			海陸判定<LandOrSea>は出現せず	<LandOrSea>内陸</LandOrSea>を追加する
	震源精度・確からしさ		RK項のn1n2n3n4n5は"11811"に(P波/S波レベル超え、またはIPF法1点の場合に準ずる)				<Hypocenter><Accuracy>内はP波/S波レベル超えの場合に準ずる: <Epicenter rank="1" rank2="1">NaN, <Depth rank="1">NaN, <MagunitudeCalculation rank="8">NaN, <NumberOfMagnitudeCalculation>1	
(続報時)最大予想震度がPLUM法による変化			PRC項のn4が"9"に	PRC項のn4が"0"(追加の理由...なし)に				
			RC項のn2が"9"に	RC項のn2が"/"(不明、未設定、キャンセル時)に			<Intensity><Appendix>の<MaxIntChangeReason>が"9"に	<MaxIntChangeReason>が"0"(変化なし)に
PLUM法予想の予報区	PLUM法予想であることの表記		EBI/ECI/EEI項のy2が"9"に	EBI/ECI/EEI項のy2が"1"(既に到達と予想)に			警報コード<Kind><Code>が"19"(警報発表区域の場合)、または"09"(警報を発表していない区域の場合)	"19" "11"(警報:主要動について、既に到達と予測)、“09” “01”(予報:主要動について、既に到達と予測)
	到達予想時刻		EBI/ECI/EEI項のhhmmssがPLUM法でその震度階級を予測した時刻に	EBI/ECI/EEI項のhhmmssが"/"/"/"/"/"/"(不明または未設定時に(現状既に到達の場合は)/"/"/"/"/"となる)			<ForecastInt>の<ArrivalTime>がPLUM法でその震度階級を予測した時刻になる。<Condition>は出現せず	<ArrivalTime>を記述せず、<Condition>既に主要動到達と推測</Condition>を記述する
従来法の最終報相当			RK項のn5が"9"に	RK項のn5がその時の震源精度に応じた値に(部内用、予告なしに変更とはしている)			<Epicenter>の属性rank2が"9"に	
EEW最終報							<NextAdvisory>この情報をもって、緊急地震速報:最終報とします。</NextAdvisory>が出現	<NextAdvisory>を記述しない

具体例はサンプル電文をご覧ください。